

2 学期始業式校長講話

○豪雨お見舞い

8 月 1 3 日に千葉県を襲った豪雨で、被害に遭われた方々のお見舞いを申し上げます。

わずか 1 2 時間半日で、千葉県内とくに千葉市では 1 か月の降雨量の 3 倍の雨が降り、8 月 2 4 日時点では、1 3 人の亡くなった方をはじめ、3 8 0 0 軒を超える床上、床下浸水の住宅や、2 0 0 軒を超える住宅の損壊他、水没自動車など多くの被害が出ました。

生徒の皆さんも常磐線を中心に松戸、柏、流山、我孫子などから通学してくる人が多く、その後のニュースでは様々な水害の状況が報道されていました。本校の生徒の皆さんの家でも被害があったのではないかと心配になりました。

○熊本地震について

1 週間後、9 月 1 日は防災の日です。これは皆さん知っての通り、1 9 2 3（大正 1 2）年 9 月 1 日に東京直下の地震が起こり、関東大震災の記憶を忘れないために設けられた日です。東京直下の地震は百年以上起こっていませんが、熊本では、この夏 7 月 2 8 日夕方 4 時半ごろに、震度 7 を記録する地震が起こり、その後も大きな余震が頻発しました。熊本県では 1 0 年前の 2 0 1 6 年 4 月に連続して震度 7 の地震がありました。その復興作業の最中にまたもや大きな地震があり、修復作業中の熊本城の石垣が一瞬にして崩れる映像がありました。

この地震は、横ずれ断層型の地殻内地震だそうで、地震活動は熊本県内の、主に日奈久断層帯に沿って分布しており、上空からの映像では直線上に地割れが走って横ずれ縦ずれがはっきり確認できました。この地震の震源周辺では、1 0 年前の熊本地震で「割れ残り」した部分が今回割れた可能性があるとされています。

特に被害が大きかったのは、熊本市の南に当たる宇城市、宇土市、氷川町、八代市などで、工場の建物が崩落したり、高速道路が破壊されたりしました。亡くなった方は震災関連死を含んで 3 8 人に上りました。猛暑日、酷暑日が続く中で被害に遭われた人たちのことを考えると胸が痛みます。千葉の豪雨被害も含めて、一刻も早く平穏な日常生活が戻ることを願っています。

○8 月について考えること

「八月や 六日、九日、十五日」という俳句があります。これは昭和 2 0（1 9 4 5）年 8 月のことを詠んだ俳句です。この俳句については、去年の 2 学期始業式の時に紹介しました

今から 8 1 年前、8 月 6 日は広島に原爆が落とされ、次いで 9 日は長崎に原爆が落とされ、1 5 日に日本は連合国から出されたポツダム宣言を受諾して終戦の日を迎えました。8 月は鎮魂、様々な人々の霊を慰めるだけでなく、平和への誓いを改めて確認する月でもあります。

昨年の 1 0 月 1 0 日に当時の石破茂首相が「戦後 8 0 年に寄せて」という所感を発表しました。本来であれば、閣議決定を経て、去年の 8 月 1 5 日に「戦後 8 0 年」の内閣総理大臣談話を出したかったのですが、様々な状況で、当時の石破首相は総辞職する前に発表しました。長文にわたるので、一部を紹介します。

…先の大戦の終結から、8 0 年がたちました。この 8 0 年間、我が国は一貫して、平和国家として歩み、世界の平和と繁栄に力を尽くしてまいりました。今日の我が国の平和と繁栄は、戦没者をはじめとする皆様の尊い命と苦難の歴史の上に築かれたものです。…これまで戦後 5 0 年、6 0 年、7 0 年の節目に内閣総理大臣談話が発出されており、歴史認識に関する歴代内閣の立場については、私も

これを引き継いでいます。

過去三度の談話においては、なぜあの戦争を避けることができなかったのかという点にはあまり触れられておりません。戦後70年談話においても、日本は「外交的、経済的な行き詰まりを、力の行使によって解決しようと試みました。国内の政治システムは、その歯止めたりえなかった」という一節がありますが、それ以上の詳細は論じられておりません。……

この後、石破氏は、「大日本帝国憲法の問題点」「政府の問題」「議会の問題」「メディアの問題」「情報収集・分析の問題」「今日への教訓」と分けて、言及していきますが、長文になるので省略します。そして、結論部分で、

……これら全ての基盤となるのは、歴史に学ぶ姿勢です。過去を直視する勇気と誠実さ、他者の主張にも謙虚に耳を傾ける寛容さを持った本来のリベラリズム、健全で強靱な民主主義が何よりも大切です。ウィンストン・チャーチルが喝破したとおり、民主主義は決して完璧な政治形態ではありません。民主主義はコストと時間を必要とし、ときに過ちを犯すものです。……

歴史に正面から向き合うことなくして、明るい未来は拓けません。歴史に学ぶ重要性は、我が国が戦後最も厳しく複雑な安全保障環境に置かれている今こそ、再認識されなければなりません。

戦争の記憶を持っている人々の数が年々少なくなり、記憶の風化が危ぶまれている今だからこそ、若い世代も含め、国民一人一人が先の大戦や平和のありようについて能動的に考え、将来に生かしていくことで、平和国家としての礎が一層強化されていくものと信じます。…

発表した時期も首相退任のタイミングという中途半端なときであり、また、閣議決定はなく、石破首相の所感としたため、マスコミでは「石破氏の所感 戦後80年には不十分」という評価です。

…大戦に至る経過に関する指摘や見解には全面的に同意する。ただ、戦後80年に首相が発するメッセージとしては不十分と言わざるを得ない。……閣議決定や終戦の日の発表を見送った上に、この程度の内容にとどまったのであれば、石破氏個人の思いを吐露したものと指摘されても仕方があるまい。石破氏は、戦後80年に閣議決定に基づく首相談話を出せなかった首相として、歴史の中で語り継がれるだろう。とかなり厳しい指摘もあります。

この首相所感のなかで、何回か「歴史に学ぶ」という言葉が使われています。歴史を学ぶということとは、過去を知ることだけでなく、そこから未来を見通すこと、展望することと私は考えます。「暗記物は得意なので、歴史は好きです」という言葉が生徒の皆さんから出てくることが多いのですが、歴史は暗記物ではありません。予測のできない豪雨や地震など自然災害への備えやその後の対応についても、過去の事例、歴史を研究することが大切であり、何よりも人間の行うことは歴史から学んで、未来を展望する力をもつことが大切です。

○夏休みが終わった

今日から2学期、新たな気持ちで学校生活を送りましょう。

9月11日からの第60回創造祭のテーマは、「T o y o R e a l. ～撮らえろ、僕らの青春～」と発表されました。今年で創造祭は60回を数えます。人間でいえば還暦、暦が一回りしたことになります。今年のテーマを発案してくれた人のねらいは、「B e R e a l」、ありのままの瞬間を共有するというコンセプトを元に考えたとのこと。東洋牛久のT o y oとR e a lを組み合わせ、着飾らない東洋牛久だけのリアルな青春を表しているとのこと。そして創造祭を通し、仲間や来場者と本物の青春を共有したいという思いを込めているそうです。猛暑というより酷暑であったこの夏に十分な準備はできなかったかもしれませんが、創造祭で青春のエネルギーを発散させてください。